



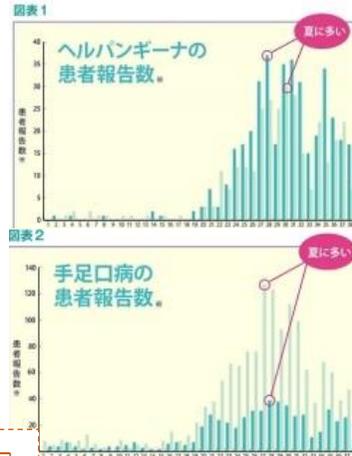
雨間の青空に初夏を感じる季節となりました。

この季節は様々な感染症の流行りだしの時期となります。手洗い・うがい・手指の消毒など感染予防をしっかり行い、元気に毎日を過ごせるよう心がけましょう。また、気温・湿度共に高くなってきましたので、こまめな水分補給を行いましょ。

これから流行る感染症に気を付けよう！

「夏風邪」と言われる手足口病やヘルパンギーナの流行のスタートは5～6月というデータがあります。その他にも咽頭結膜炎(プール熱)や流行性角結膜炎(はやり目)なども夏に向けて増えてきます。どれも他者への感染力が強い病気となりますので、病院の受診・必要に応じて登園自粛をお願いいたします。

(出展: [厚生労働 6月号 特集 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](http://mhlw.go.jp))



ヘルパンギーナ 登園届

- ・38℃以上の発熱
- ・口や喉に水疱性の発疹



水分補給をし、安静にしましょう。口内の痛みを伴いますので、口当たりの良い柔らかいものを与えます。

プール熱(アデノウイルス) 意見書

- ・39℃以上の発熱
- ・喉の腫れや痛み

基本的には対処療法となります。軽快した後数週間には便からウイルスが排出されるので気を付けましょう。

手足口病 登園届

- ・37℃～38℃の発熱
- ・口内・手の平・足の裏に水疱性の発疹



水分補給をし、安静にしましょう。口内の痛みを伴いますので、薄味で口当たりの良い柔らかいものを与えます。

流行性角結膜炎(アデノウイルス) 意見書

- ・充血やめやりに等の目の症状
- ・目周りや顎下のリンパの腫れ



目薬が処方されることがあります。目やにを拭いたガーゼ等はずくに捨て、他者への感染を防ぎましょう。

虫さされが増える季節になりました

暖かくなり、蚊やブヨなどによる虫さされが増える季節となってきました。一般的には1～2時間で炎症反応が収まるのが殆どですが、子どもの場合は1～2日後にかゆみや発疹・腫れが現れる遅延反応が起きるケースも多くあります。

正しい対処法を実践した上で、症状が長引いたり発熱などの全身症状が現れた場合は速やかに病院を受診しましょう。

対処法

- ・まずは刺された箇所を水で洗い流す。
- ・かゆみや腫れが強い場合は、刺された箇所を冷やしたタオルやタオルなどでくるんだ保冷剤を当てて冷やす。

園では予防対策として手作りの虫よけスプレーを使用しています。また、虫に刺されてしまった場合は、刺された箇所を水で洗い流した後、ベビームヒもしくはムヒを塗っています。ご自宅で塗り薬を使用している場合はその箇所への塗布を避けますので、事前にお知らせください。

刺された箇所を爪で掻きむしると「とびひ」になってしまうことも。こまめに爪をきりましょう！



感染症発生状況 (2月～5月)

- ・アデノウイルス (3月)
- ・溶連菌感染症 (3・4月)
- ・インフルエンザ (3・4月)

■現在発熱・咳・下痢の園児が増えてきています。

■治癒後の登園時に、「登園届」や「意見書」が必要な感染症があります。「保育園のしおり」をご確認ください。(「ヒトメタニューモウイルス」は、記載がありませんが、「登園届」が必要となります。登園の目安などは「RSウイルス」の欄を参照してください)

今後の予定

○6月7日(金) 尿検査
対象者には6月5日(水)・6日(木)に容器を配布いたします。

○6月26日(水) 歯科検診
(予備日: 6月28日(金))

